

# マクとゴミ

～宇宙社会の未来を考えるならば今宇宙に捨てた物の価値を再考する時～

スペースデブリは建築と化し

住空間のインフラ設備へと進化をとげる

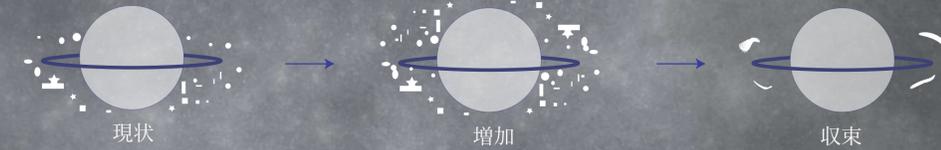


## ・Background～膨張する問題点～

私は宇宙空間における Inflation(膨張)と聞いて、初めに思い浮かんだのはスペースデブリ(宇宙ゴミ)である。地球からの打ち上げによる宇宙船のゴミは現在4インチ以上の物が約22000個あるとされている。宇宙船の打ち上げや人工衛星の妨げ、これから先の未来宇宙空間での生活の支障などにならないように、このスペースデブリという宇宙空間における問題を膜建築と融合し解決できないだろうか。

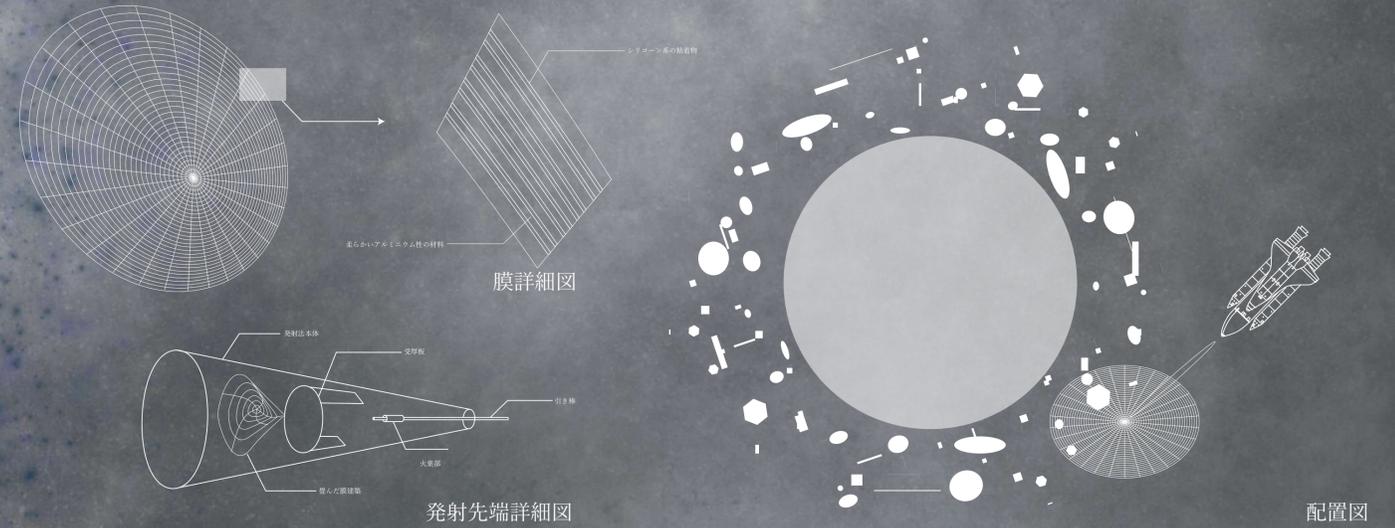
## ・Objective～廃棄物のインフラ設備～

宇宙生活において発生するゴミの行き場所や宇宙空間のスペースデブリの再利用を目的とし、宇宙船の「ゴミ捨て場」「宇宙ゴミによる宇宙船の(屋根、壁)として用いる膜建築」として活用する。

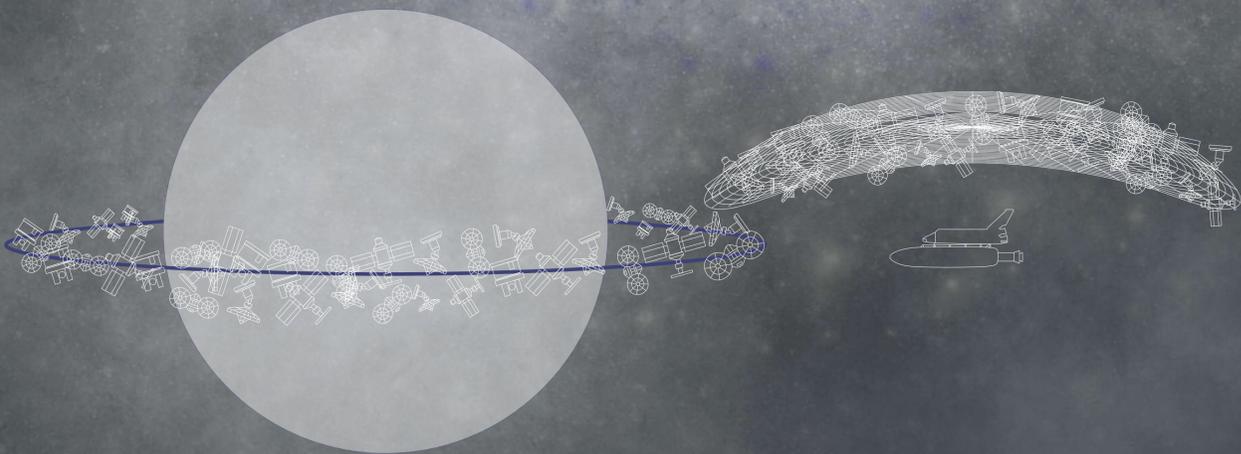
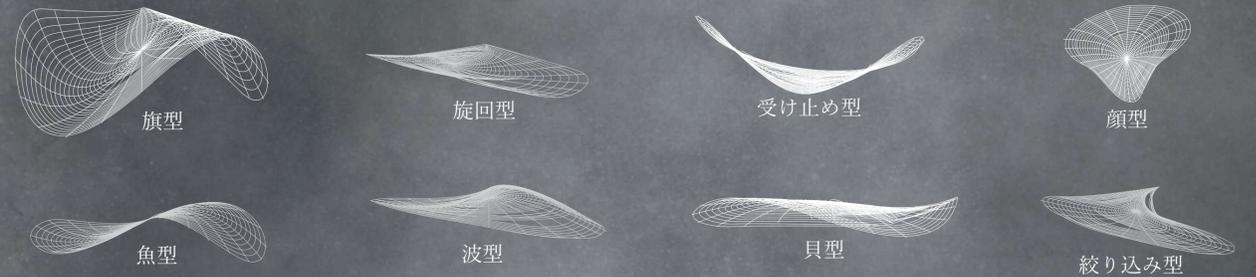


## Proposal～粘着性を持った膜建築～

膜構造はアルミニウム性のクモの素状の形を使用する、その構造体の側面にシリコン系粘着剤などを組み合わせる事で膜に粘着性を持たせる。膜は宇宙船内ではクラッカー構造と同じように収縮し放出されると同時にクモの巣状になる。その後、スペースデブリが膜に付くことにより可変性を持った膜建築へと変化する。また追加でゴミを加える事により膜建築の意匠は変化する。



## ～ゴミの付き方で形が変わる可変性を持った建築～



立面図



外の膜建築にゴミを投げる